# ３．鋼橋製作における仮組立検査の省略について

端事　務　連　絡

平成７年９月28日

各地方建設局道路工事課長
北海道開発局道路建設課課長　殿
沖縄総合事務局道路建設課長

建設省道路局
国道課課長補佐

鋼橋製作における仮組立検査の省略について

施工管理技術の高度化による鋼橋製作における仮組立検査の省略については、「公共工事の建設費の縮減に関する行動計画」(平成６年12月１日付け事務次官通知)に位置づけられているところであり、当面、下記により実施することとしたので積極的な推進を図られたい。

記

１．対象橋梁

当面、鋼橋鈑桁（Ｉ形断面)、直橋、斜角75°以上の全ての条件を満たす橋梁を対象とする。

２．施工管理

鋼橋製作における仮組立検査の省略する場合においては、当面、土木施工管理基準および出来型規格値の規定にかかわらず、別紙「鋼橋の仮組立による検査を省略する場合の施工管理基準及び規格値（案)」を参考にされたい。

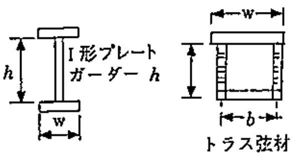
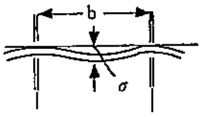
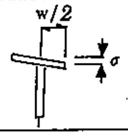
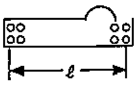
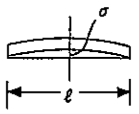
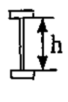
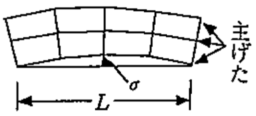
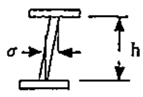
３．仮組立の検査を省略する場合の製作工数

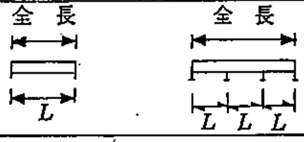
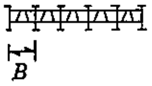
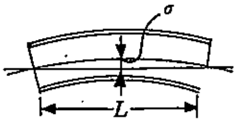
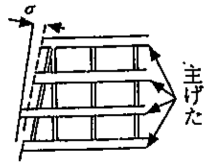
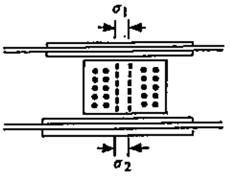
仮組立検査に代わる精度確認方法の工数については、実態調査の結果、通常の仮組立工数の60％程度であるので、当面これを参考にされたい。

４．適用の時期

平成７年10月１日以降適用する。

# 鋼橋の仮組立による検査を省略する場合の施工管理基準及び規格値（案）

| 行 | 精度の対象 | 項目 | | 規格値 | 備考 | 測定箇所 | 仮組立を実施無 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 部材精度 | フランジ幅 w (m)<br>腹板高 h (m)<br>腹板間隔 b' (m) | | ±2…………w≦0.5<br>±3…………0.5＜w≦1.0<br>±4…………1.0＜w≦2.0<br>±(3+w/2)…2.0＜w | 左欄のbはb，hおよびb'を代表したものである。 |  | 工場 |
| 2 | | 板の平面度 δ (mm) | プレートガーダーおよびトラスなどの部材の腹板 | h/250 | h：腹板高（mm） |  | 工場 |
| | | | 箱げたおよびトラスなどのフランジ、鋼床版のデッキプレート | b/150 | b：腹板またはリブの間隔(mm) | | |
| 3 | | フランジの直角度 δ (mm) | | w/200 | b：フランジ幅(mm) |  | 工場 |
| 4 | | 部材長 ℓ (m) | プレートガーダー | ±3………… ℓ≦10<br>±4………… ℓ＞10 | w：車道幅員(m) | | 工場 |
| | | | トラス、アーチなど | ±2………… ℓ≦10<br>±3………… ℓ＞10 | |  | |
| | | | 伸縮継手 | −5～+10…… ℓ≦10<br>−5～+(5+W/2)… ℓ＞10 | | | |
| 5 | | 圧縮材の曲り δ (mm) | | ℓ/1,000 | ℓ：部材長（mm） |  | 工場 |
| 6 | | 主構の組立高さ h (m) | | ±5　　h≦5<br>±(2.5+h/2)　h＞5 | |  | 工場 |
| 7 | | 主げた・主構の通り δ (mm) | | 5+L/5　　L≦100<br>25　　L＞100 | L：測線長（m） |  | 工場 |
| 8 | | 主げた・主構の鉛直度 δ (mm) | | 3+h/1,000 | h：主げた・主構の高さ（mm） |  | 工場 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 組立精度 | 全長・支間長L（m） | ±（10+L/10） | |  | 現場 |
| 10 | | 主げた・主構の中心間距離<br>B（m） | ±4　B≦2<br>±（3+B/2）　B>2 | |  | 現場 |
| 11 | | 架設完了キャンバー<br>δ（mm） | L：支間長（m）<br>L≦40　±25mm<br>L>40<br>±｛25+（L−40）｝ | L：主げた・主構の支間長（m） |  | 現場 |
| 12 | | 主げた・主構の橋端における出入り差　δ（mm） | 10 | |  | 現場 |
| 13 | | 現場継手部のすき間<br>δ（mm） | 5 | δ：右図における$\delta_1$、$\delta_2$のうち大きいもの（mm） |  | 現場 |
| 14 | | 平面対角線長<br>δ（mm） | ｜δ｜≦15mm | δ：対角線長の差 | | 現場 |